

マイトーク

MY TALK

発行：中央大学放送研究会OB会（会長／水上 虎馬雄）

住所：〒192-03 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成8年12月1日

創刊号



世代を超えたOB会

白門祭初日の11月1日、中央大学常任理事室に水上会長をお訪ねし、放送研究会の黎明期から今日まで、45年間の思い出をお伺いしました。



水上 虎馬雄会長

◆民放の夜明けとともに発足

私たちの学生時代は、戦後の日本のなかにちょうど民放のラジオ局が次々に開局を始めた時期だったのです。私は、卒業後、そのまま大学に残ることになって、学生の立場から一転して学生の面倒をみる立場になったわけですが、これからは放送やマスコミの時代になると判断して、中大の学生たちにもサークル活動で放送に馴染んでもらったらどうだろうと思ったのです。

実は、学生時代にひとつ体験がありましたね。なかあって、元日に大学に出てきたことがあるんです。そうしたら、教室で鉢巻きをして勉強している学生がいたんですよ。私も法律を学んでいたし、司法試験にもチャレンジしたいと考えていたけれど、

その姿には敬意の念と同時にある種の疑問も感じます。もつと別の指向をしている学生もいるんじゃないかって…。

そんなこんなで、とにかく放研を立ち上げるようになったのですが、当時は相談する人がだれもいなくて、全部自分一人で行いました。あれは昭和二十七年の六月末だったと思いますが、いよいよ校内送で会員の募集をしたんです。さいわい何人かの募者がいた中に、一人が「あれっ、違うんですか」と言うんですね。彼は『放送』を『法曹』と勘違いしたらしく、いかにも当時の中大の風潮を表している出来事として、いまだに忘れられません。

◆中大学生の新しい生き方の萌芽

当初は全部で三十人ほどの会員で、女子は三人だったと思います。参加の動機は、演劇を目指している人がラジオドラマに興味を持ったり、放送を自の行く道にしようという意思を持ったり各人各様でした。

もちろん会室なんてなかったし、なんとか集ま場所を作っても、とても部屋なんていうものではなかったのです。それでも、みんな生き生きと活動していましたね。昭和二十七年というと、放送だけでなく、日本の文化が様々に変容していく時代ですし、その変革の過程にあって、みんながラジオという新しい文化に関心を抱いて、一心に打ち込んでいたのです。

先ほども話したように、中大といえば司法試験という時代に、このような新しいメディアに興味を持って研究する集団が出てきたということは、大袈かもしれないけれど中大の学生の新しい生き方が

生えてきたとも考えられるのですよ。

◆待ち望んだ音楽鑑賞室の設置

放研の活動に大きな影響を与えたものに音楽鑑賞室がありますね。初期には、会活動の成果を一般学生に発表する場所がなく、教室に機器を仮設してやっていたのですが、どうしても放研が独自に使える設備が必要だったのです。ちょうどそのころ、駿河台一号館を建設する運びになり、ここぞとばかり、放研が専属で使える音楽鑑賞室の設置を大学に要請しました。幸いにも、これが認められ、さて設計という段階では、どのような部屋の構造にすれば音響効果が高いか、どんな機器を備えるべきかなど、放研の技術の面倒を見て戴いていた植松さんにいろいろ相談し、機器類は、たしかナショナルに特注しました。

こんなわけで、待望の音楽鑑賞室が設置され放研の活動にも弾みがつき、十年ほどは順調に推移しましたが、その後、あの学園紛争の嵐が巻き起こったのです。

◆最後の一人までがんばろうと激励

中大に限らず、全国の大学を巻き込んだ学園紛争により、大学はすっかり荒れてしまいました。せっかくの音楽鑑賞室も、止むを得ず閉鎖されてしまい、新築された学生会館の会室も、学館の管理運営を巡って学生運動がクライマックスになり、わずかの期間利用されただけで、やがて封鎖されてしまったのです。

放研も、活動どころか学内へも入れないような状態で、会員も次々と離れていき、一時は数人しか残

らないという壊滅状態にまで追い込まれました。そんな最中に、当時の放研の委員長が私のところに「これでは、もうお終いです」と言ってきたんです。そこで私は「ちよっと待て。たとえ最後の一人二人になっても、この放研の灯を絶やしてはいけないよ」と激励したことを覚えていますね。

放研の歴史の中に危機があるとすれば、あれほどの危機はなかったでしょう。その後は大学と学生に、永い間、疎遠状態が続くことになったのです。

◆新天地を求めて八王子に移転

中央大学が駿河台から八王子に移転することが本格化したのは昭和五十三年でした。全国の大学の先鞭を切って、当時では珍しい大移転を実行したので

す。
ところが、放研も移転したわけですが、多摩校舎には音楽鑑賞室が無かったのです。私は、駿河台校舎の条件を最低限は備えるという約束に反するじゃないかと、大学に放研のスタジオ設置を要請しました。スタジオを作るには、床を浮かしたり、建物の中にもう一つ建物を作るほどの費用がかかるそうですが、大学は、多少時期は遅れましたが、この要請を実現してくれたのです。

新天地の多摩キャンパスで、放研の活動は再開されました。スタジオも十数年経て、いろいろ不備もあります。オーバーホールをしつつなんとか現役の活動を支えてくれています。

◆時代の流れを超越したOB会

こうやって四十五年間を振り返ると、放研のOB会は不思議なくらいにまとまって、前後の意思疎通

も、現役との接点もしっかりしています。一人ひとりが放研に愛着を持って卒業していき、各期の幹事が同期をまとめ、上下の連絡を密にしているからだと思えます。多感な青春の一時期を、同じ釜の飯を食い合った仲なのですから、それを信じてお互いに協力してもらえれば、時代の流れや世代の交替を超越した力になるでしょうね。

もともと、OB会は堅い会則などを作らないというのが、私の考え方だったのです。しかし、会員が数百人になると、規程を作って幹事を置くことも必要になってきます。ぜひOB会をみんなで盛り上げ、総会や周年式典には、全国から多くの人々が参加して大いに再会を祝いたいものですね。

(インタビュール 金野)

メモランダム

水上会長は大正十五年のお生まれ。囲碁とヘラ釣りりとゴルフがご趣味で、中央大学常任理事というお忙しさの合間を見つけては楽しんでいらしゃいます。

「私が車の運転を始めたのは五十三歳の時でした。昭和五十二年の八月十五日に吉祥寺の教習所に行つて、翌年の二月十四日、つまり六ヶ月の時効寸前で免許を取りました」
「気持ち良いほど、あらゆる数字がビビシと出てくるのに驚かされます。」

「未だに優良ドライバーです。車には若葉マークはあるけれどシルバーマークはない。運転席に座れば若者も年寄りもありません」と、おしゃるところにも、生涯現役の秘訣があるとお見受けしました。

第一会定例総会開催

平成七年七月二十二日、中央大学放送研究会OB会の第一回定例総会が、駿河台記念館にOB、現役の約百人を集めて盛大に開催されました。

皆川あや子さん（7期）の司会により、議長に北島さん（17期）を選出し議事に入りました。はじめに若尾幹事長（12期）から三年間のOB会活動報告があり、続いて会則の一部改訂が提案されました。これは、会則第四章第一条にある「副会長一名」を「副会長数名」に改めるもので、拍手により決定され、幹事会から新たに清田さんと石河さんを推薦して承認されました。これにより、会長、副会長は次の顔ぶれになりました。（敬称略）



活動報告をする若尾前幹事長

会長 水上虎馬雄
副会長 1期 清田 義雄
2期 桃川 龍一
6期 石河 敏子

また会計監査人は、斎藤さん（5期）、河合さん（11期）の留任が決定され、最後に若尾幹事長から、別記のとおり、次期幹事体制が報告され総会は終了しました。

引き続き懇親会が催され、水上会長、金野新幹事長の挨拶の後、桃川さんの発声で乾杯し、楽しい歓談が始まりました。途中、現役委員長から放研の活動状況が報告されビデオ作品が上映されると、ラジオ世代の多いOBは感慨を新たにしていました。

久しぶりの再会に積もる話もきりがなく、最後は恒例の立崎カメラマンによる記念写真、清田さんの手締めと続き盛会のうちにお開きとなりました。



久々の再会に話がつきない

新幹事体制紹介

第一回定例総会において、新しく左記の幹事制が報告され、三年間、OB会運営を務めることになりましたのでよろしくお願ひします。（敬称略）

幹事長 15期 金野 涼二
副幹事長 17期 北島 宏幸
事務局 20期 松原 優
事務局 19期 竹間 文子
23期 保子 真之
24期 田中 克巳
27期 新井 英則
31期 立石美智男
32期 山田 康平

〈各期幹事〉

1期	清田	2期	桃川	3期	増子
4期	榛葉	5期	斎藤	6期	林
7期	佐藤	8期	奥野	9期	山本
10期	花岡	11期	河合	12期	若尾
13期	柳田	14期	津曲	15期	中永
16期	黒川	17期	北島	18期	大悟法
19期	福田	20期	松原	21期	岩花
22期	花房	23期	保子	24期	田中
25期	佐藤	26期	橋場	27期	新井
28期	山田	29期	土屋	30期	星野
31期	立石	32期	山田	33期	後藤
34期	池田	35期	関	36期	森口
37期	井上	38期	中西	39期	菅野
40期	稲村	41期	高橋	42期	小幡
43期	田中				

AGILITY

OBアクトビティ

総勢二十七名の台湾ツアー

東京都 12期 砂岡茂明

平成七年十一月二十三日から三泊四日で、十二期から十五期までの有志二十七名が参加し、台北、花蓮へと繰り出しました。

当時、台北に単身赴任中だった具志君が幹事になり、世界三大ホテルのひとつ圓山大飯店に宿泊、二十七名が一緒に座れる巨大な円卓での宮廷料理に舌鼓を打ち、故宮博物院で中国五千年の秘宝を見学し歴史の厚みに圧倒されました。



圓山大飯店に勢ぞろい

さらに、国内線で花蓮へと飛び、大理石の景観を觀賞して心を洗われ、夜は一転してナイトクラブを借り切つてのカラオケ大会と、台湾を十二分に満喫した一二期プラスαの御一行でした。

〈御一行名簿・敬称略〉

水上虎馬雄会長

12期 石井（中沢）+娘さん、具志、小嶺、近内

（牛川）、内田、及川、若尾、河口、砂岡、富

岡夫妻、北上夫妻、鈴木正勝、古田島、菅根

（向）、安藤、関、高橋俊次、米山

14期 浅見、荒井、檜崎、中永（橋本）

15期 小原

仲間とつくった沖縄の旅

札幌市 15期 堂前綾子

私たち十五期は、毎年、どこかに一泊程度の小旅行を楽しんでいます。二年前に遠出をしようということになり、三年前は道東、昨年は沖縄を選びました。十一月二十三日から二泊三日の日程でした。

ので、ちょうど十二期から十四期の方々の台湾ツアーと重なってしまい、中永さんのご夫妻は国境を挟んで泣き別れです。道東の旅は地元でしたから、なんとなくツアー気分でしたが、こんどは私が一番遠くからの参加で遠出を満喫できました。

東京では、空港に着いてビックリ。沖縄便カウンターの前の集合のはずが、新しくなった羽田は、どこ行きも全部のカウンターで受付ができ、広いロビ



首里城の裏門でパチリ

ーを誰か来ないかとウロウロ、ハラハラ。やっと皆の顔を見つけた時はホッとしました。

暖かいと思っていた沖縄は、札幌とくらべてあまり温度差がなく、二日目、三日目も上着を脱ぐことができず、結局は着たきり雀の状態でした。それでも、椰子の木や青色の海を見た時は、やっと南の国に旅をしたと感じました。

沖縄伝統工芸に親しみ、ひめゆりの塔にジーンとし、沖縄民謡にふれて感動しましたが、でも、食べ物にしろ、風景にしろ、私は「北海道にまさるものはない」と改めて北国の良さを感じました。（勝手に言うてゴメン！）

公設市場で夕食をとろうとしたら、ルルル〜と携帯電話。家庭教師をしている中学生からです。はるばる札幌からの声にびっくりして「先生は沖縄よ」と言うと、驚いて切られてしまいました。

三日間ジャンボタクシーを借りきり、高村さんと安倍さんの密度の濃いプランに、すっかりおまかせスタイルの旅でした。海の見えるドライブレストランで昼食をとり、午後の目的地に向かう途中、レストランに上着を忘れられるというドジをやり、帰りに回り道してもらいましたが、皆さんにはご迷惑をかけてしまいました。(時間をロスしてゴメン！)

この旅で、とことん学生時代にタイムスリップしてしまい、放研の活動の様子や友達の顔が、ずっと頭の中に浮かんでいました。鹿児島から参加した小沢さんも、久しぶりに会うと学生時代そのままのイメージですけど、タクシーの運転手さんにサインを頼まれてテレていましたっけ。(ワァーすっかり有名人なんだな)

OB会でも、楽しい集まりの機会をつくって戴ければうれしいですね。その時は、万障繰り合わせて出席したいと思います。チャンスさえあれば、どこへでも顔を出すつもりでおります。人生って短いですから、五年ごとなんて言っていられませんよね。そうでしょ、皆さん！

四国祖谷峡同期会顛末期

東京都 12期 砂岡茂明

平成八年十一月二日から二泊三日で、恒例の十二期生同期会が開催されました。

札幌から北上夫妻、新潟から古田島、東京から水上会長、若尾、具志、石井(中沢)、米山、内田、近内(牛川)、砂岡、名古屋から高橋、大阪から鈴木正勝、関、山口から菅根(向)、徳原、そして今回幹事の富岡夫妻と、総勢十八名の参加です。



秘境温泉巡りの一行

正午にJR高松駅に集合、貸切バスで一路祖谷温泉に向かいました。途中、阿波の池田高校、祖谷峡、かづら橋を経由し四国の秘境祖谷温泉に到着。夕闇せまる谷間を旅館の専用ケーブルカーで二百五十メートルも下る、名物の露天風呂に飛び込み、夜は宴会、二次会とお決まりコースで放研時代にタイムスリップ。

翌日は金比羅様の八百階段を一気に駆け登り、早帰り組、寄り道組を見送って、残り十名は丸亀で後夜祭。来年の再会を約束し無事解散となり、メデタシメデタシの旅でした。

セピアのアルバム

同じ釜の飯を食った日

「この写真は、我々が一年生で参加した野反湖の合宿スナップです。先輩と一緒に過ごす初合宿は、楽しくもあり怖くもありましたね。今でも鮮烈な印象が残っていますよ」

十五期の中永さんの思い出の一枚には、同期の佐伯さんが薪を燃やしていて、周りにはズラリと先輩女性陣の監視?の目が……

昭和三十八年八月二十三日から三泊四日のバンガロー生活をした野反湖は、同じ釜の飯を食う結束力を十分に強めてくれたのです。

「数十年ぶりに押し入れから引っぱり出したら、次々に懐かしい写真が出てきて、丸一日も思い出に浸ってしまいました」とか。

中永さん、未来の奥様(14期橋本さん)もしっかり写っているじゃありませんか。



AGILITY

現役アクティビティ

【研究会の編成】

放送研究会は、現在、一年が約二十五名、二年が約二十名、三年が約二十名、四年が約十五名、全部で八十名前後の大所帯で活動をしています。サークルの中は、技術、アナウンス、映像、制作、劇の五部に分かれており、それぞれの部が協力しあい、お互いの技術レベルを高めています。また、一人で複数の部に所属することも可能です。

技術部は裏方ですが、ミキサーなど放送になくてはならない役割を受け持っています。アナウンス部は、DJ、ニュース、朗読などのほか、学祭（白門祭）中央スタジオ司会など幅広く活動しています。映像部は、映像によるドラマ、ドキュメンタリーな



今年の白門祭サテスタ

どの制作が、また制作部は、劇、ドラマ（ラジオドラマ含む）などの脚本を書くことが主になります。劇部は、舞台での実際の劇を番組発表会で発表することを目標にしています。

【年間活動状況】

年間の活動は、新歓合宿、夏合宿、春秋二回の番組発表会、学祭（白門祭）となっています。

今年の新歓合宿では、伊東温泉に一泊二日で行き一年生との交流を深めてきました。また、夏期合宿では、白樺湖に三泊四日で行き、前期の疲れを癒すとともに、後期へ向けてのプランを検討しました。

毎年、春と秋に実施される番組発表会は、日頃の活動成果を発揮する格好の場で、今春はDJ、ラジオドラマ、映像ビデオ、劇が発表され、他大学の放送研究会からも高い評価を得ることができました。とりわけ劇は、他大学には無いもので、中大放研の目玉とも言えるでしょう。

【今年の白門祭】

学祭（白門祭）は、その名のごとく、私たちもお祭り一色に染まります。今年も、サークルの象徴として特製ウインドブレイカーを作りました。このようなどころにも、会員の協調性が現われていると思います。学祭では、サテライトスタジオと出店（今年のみそ煮込みうどん）を中心に活動しています。サテライトスタジオでは、DJ、各種イベントを実施し、中大生だけではなく、様々な企業の方々から

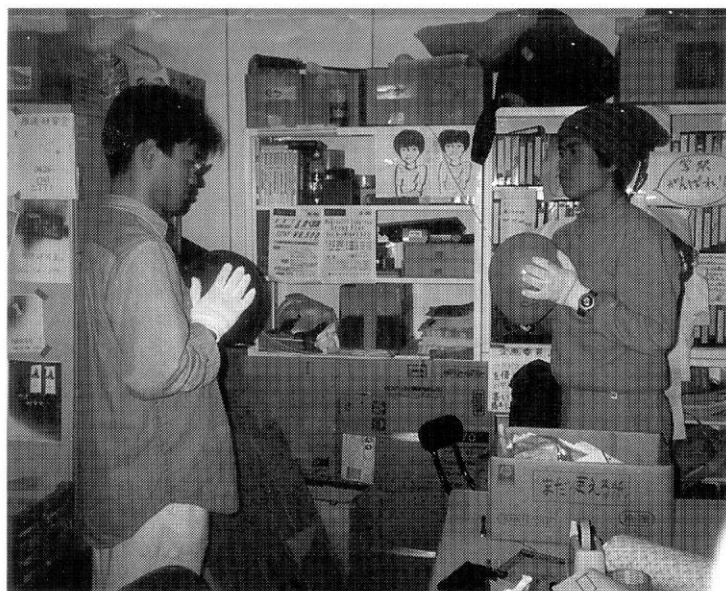
も協力を得ており、毎年、大変な盛り上がりになっています。

【OBとの交流】

この十一月三十日に、テレビ朝日編成局長の早河洋氏を講師にお願いし、マスコミ界の現状についてお話しをして戴くことになっています。これをきっかけに、大学生だけでは分からないマスコミ動向や社会現象について、各分野でご活躍中の先輩の方々にお教え戴く機会を多く作り、OBとの交流を深めていきたいと考えています。

これからも、私たちにご指導を戴きますように、よろしくお願い申し上げます。

（中央大学放送研究会現役会員一同）



ある日の会室スナップ

長信・短信+

2期 桃川龍一さん

風のうわさ

今年の五月から、社会的に老齢者と認定されました。せんだってヒヨッコリ名古屋のコンちゃんが見われ、お互いに老人であることを確かめました。いわく、今年からは銀行も個人ローンは組んでくれないよねと。能力なしと云うことでしよう。十一月二十一日学員会主催のゴルフ大会に私は29会チームで参加したのですが坂君が奥さん（旧姓、友松）同伴で個人参加し、仲の良いところを見せつけられました。能力ありと認めましょうか。ちなみに水上会長も26会チームで参加されました。アナウンス研究会チームも二組参加していましたよ。歴史のある放送研究会も来年はチームを組んで参加してみませんか。まあスコアはどうでもゴルフが出来るくらいの健康状態です。

3期 増子智英さん

年金をもらって細々と暮らすようになって四年半になります。何が良かったといつて時間をかなり気ままに使えるようになったことが一番です。それと、嫌で気に染まない事はやらなくてすむ。つまり自由な領域がかなり広がったということでしょう。

その時間を使って何をしているのか？

まず、油絵を始めた事。長男の嫁さんに二人展をやろうと挑戦を受けています。彼女は美大出だから、ちよつと格が違い無理かな？

囲碁を始めた事。初段ぐらいにはなりたいけど、

これもちよつと無理かな？

法華経を読誦する事。読む度に心に触れるところが違う。いつまでも新鮮で味わい深いものです。

サイクリングを始めた事。先日、サイクリング車を買いました。

味のある写真を撮れるようになりたい事。在職中に買い求めた分不相応なカメラを持っています。

溪流で岩魚・やまめを釣る毛鉤を作る事。もう二十年近くやってますが、独創的な絶対的な毛鉤も造りたい。

孫とキャンピングしたい事。道具は既に整え済み。彼は家族と海外にいるので、早く帰って来ないかな。パソコンをもう少し使いこなしたい事。深入りすると、他の事が出来なくなるかしら？

定年後は、さぞかし閑になるかと思っていました。案に相違して忙しく、時間とは足りないものであることが分かりました。

冗長に過ぎましたが、まずは近況まで。

5期 斉藤 進さん

平成八年十月某日、このところ年会となっている五期の集いが、輪（和）を広げて今年も実現した。

薩摩の人が、久しぶりに仕事で尾張までやって来るとのこと。電信会話（即ち電話）でそのことを知った生来のお節介焼きが、ご注進とばかりに、寄り合いについてはいかにと江戸近辺の年仲間に触れを回してみた。

幸いなるかな、仲間の半数から賛意を貰った。そこで薩摩人に、できれば江戸まで草鞋を延ばしてはもらえまえか尋ねてみれば、これまた二つ返事。

さて集まる顔ぶれはと数えてみれば、五指にちよいとどの淋しい頭数。これはどうしたものかとあれこ

がんばって まします。

仙台市 15期 斉藤 剛

杜の都、仙台に転勤したのは一昨年八月のこと、もう二年数ヶ月になりました。この歳になっての単身赴任、ビジネス社会は厳しいものです。東京では愛する妻と適齢期の娘二人の母子家庭。オトクサンを忘れられないように、ひたすら電話による父権維持に努めています。

昨年春、遅い桜を追いかけて、同期が力をつけて来てくれました。なよりの励ましにホロリとする間もなく、あれを見たい、これが食べたいと、わがままいっぱいの大旅行。ガイド役としてヘトヘトになりましたが、嬉しい二日間でした。

青葉城跡から徒歩十分ほどの所にある日立情報システムズ東北支店ががんばっていますので、皆さんもご来仙の際はぜひ声をかけてください。



人も桜も遅咲きなのだ

れ思い悩むうち、そうだ、大先達と哥兄株の助けを借りては？と、吾ながらよい思索を思いつき、おそれながらと伺いをたてれば快諾の返答をもらう。

ということ、ところも新宿の茶屋ときめておおよそ十人の面々。三々五々足を運ぶ。集まった者はひととせ振りの健康を、ふたとせ振りの再会を喜び合い話はずみ歌も出た。そして、中には中央塾を巣立って以来という大再会（？）もあり、小雨もよいこの日の寄り合いは、夜の更けるまで盛り上がりがあった。

6期 林 宏祐さん ◆停年という名前の広大な「時間の大海」で一年半が過ぎました。まだ、海辺での水遊びやウツボの如く、岩穴より首を出したり引つ込めたり、周囲をキョロキョロしている日々です。

7期 後藤明夫さん ◆第七期の白井兄と久しぶりに逢いました。白井兄は白鳥で有名なひょう湖のある小泉町で白龍酒造を経営しておられます。白鳥を見に行かれたら顔を見に寄ってみて下さい。

9期 山本淳一さん ◆昨年十一月、同期十名が北海道函館に集合し、HBC岡野氏を囲んで旧交を温めました。本年は、十一月に、富山在住の宮島氏が上京する機会に、有志数名で会合を行います。来年度は、還暦を迎えるメンバーが多くなりますので、盛大に同期会を行うことを企画中です。

10期 花岡 裕さん ◆放研十期生の私も、いつまでも若いと思っていました、もうすぐ六十です。しかし、これからの光輝いた人生です。

13期 柳田美根子さん ◆今年、七月十三、十四日に熱海で同期会を開きました。今回は高山か下呂で開く予定です。

17期 谷井 健さん ◆現在、富山の自宅を離れて東京に単身赴任中です。十一月十六、十七日の両日、同期と十九期五名が参加して一泊で熱海に行ってきました。

19期 福田好朗さん ◆本年四月より法政大学工学部経営工学の教授になりました。若い人に教える難しさを感じているこの頃です。

ホワイトボード

【創立四十五周年行事を再来年開催】

放送研究会の創立四十五周年は平成九年に当たりませんが、平成十年にOB会の第二回定例総会が予定されており、それと同時に開催することが決まりました。

平成7年度 中央大学放送研究会OB会決算書

収入の部	会費	350,330 (59人)
	総会費	860,000 (83人と1人)
	前年度繰越金	1,315,223
	合計	2,525,553
支出の部	会議費	237,558
	通信費	59,240
	会費振込手数料	16,330
	総会費用	528,905
	事務費	6,996
	印刷代	42,127
	慶弔費	60,000
	次年度繰越金	1,570,397
	合計	2,525,553

平成8年9月21日 会計 齋藤 進 (5期)
河合昭次郎 (11期)

これは今年九月二十一日の幹事会で審議され、周年行事と定例総会を続けて開くには負担が多く、総会を繰り上げるのも不可能との判断から周年を一致することにしました。

楽しみにお待ち戴いているOB諸氏には恐縮ですが、その分、盛り沢山な企画を用意しますのでご了承ください。

■訃報■

●三十二期の古作洋一さんは、平成七年六月永眠されました。

●二十期の内記隆利さんは、平成七年十一月永眠されました。

御冥福をお祈り申し上げます。
(OB会より、お香典をお供えました)

編集後記

OB会機関紙、名付けて「マイトーク」。以前の放研の「マイク」と「トーク」をミキシングしました。ようやく創刊号をお届け出来ることになりました。今回は、発行までの期間も少なく、記事を送っていただいたOBの方々には、むりやり急なお願いをきいていただき、編集者一同感謝しております。水上会長には中大常任理事室まで押しかけ、貴重な時間をさいっていただきお話をうかがいました。今後は年二回程度、十分な準備期間をとって発行して行きたいと思えます。

OBの皆様の大きなご協力なくしては続けていきませんので、編集部より依頼がきた場合は、心よく、そして積極的に、お引受けいただきたくお願い致します。